

令和5年度 第2回 霧島市ふるさと創生有識者会議

開催日時	令和5年11月8日(水) 10:00~11:50		
開催場所	霧島市役所 701・702 会議室		
出席者	有識者	本田 泰寛 委員長、川東 千尋 副委員長、八反田 ひろみ 委員 前野 里美 委員、武田 和大 委員、斑目 信行 委員、岩元 明子 委員 村上 和 委員、田間 美沙緒 委員、林 慶藏 委員、鶴ヶ野 未央 委員 蘆田 慶子 委員 (全15委員中12人が出席)	
	霧島市	地域政策課：横山 主幹兼地域政策G長、今村 主幹兼中山間地域活性化G長 DX推進課：大谷 DX戦略G主任主事 環境衛生課：山本 主幹兼環境保全G長、白鳥 主幹兼廃棄物対策G長 鬼塚 環境保全Gサブリーダー 市民活動推進課：有村 主幹兼市民環境政策・国際交流G長 保健福祉政策課：森山 主幹兼保健福祉政策G長 健康増進課：上小園 主幹兼保健予防G長 子育て支援課：小橋 主幹兼子ども・子育てG長 農政畜産課：内村 主幹兼農林水産政策G長 商工振興課：西村 主幹兼商工観光政策G長、中村 企業振興室サブリーダー 春口 企業振興室主査 建設政策課：丸山 主幹兼政策G長 教育総務課：山内 教育政策G長	
	事務局	出口 企画部長、上小園 企画政策課長、藤田 主幹兼企画政策G長 川床 企画政策Gサブリーダー、永田主事	
公開・一部非公開又は非公開の別	公開	傍聴人数	0人
会次第 1 開会 2 委員長あいさつ 3 議事 (1) 第2期霧島市ふるさと創生総合戦略の総括について 資料1, 2, 3 (2) 第3期霧島市ふるさと創生総合戦略の取組について 資料1 4 その他 5 閉会			

議事等の概要

Ⓔ：委員 Ⓕ：事務局

(1) 第2期霧島市ふるさと創生総合戦略の総括について

→ 事務局（企画政策課）から資料1の2～7ページ、資料2に基づき説明。

Ⓔ 資料2のKPIでコロナ禍の影響を受けていないものは？

Ⓕ コロナの影響を受けたKPIと、そうでないものとの分析は行っていない。今後、そのような視点での検証も検討したい。

Ⓔ 第1期戦略のKPI達成率は。

Ⓕ 令和元年度の実績値で、49KPIのうち20KPIが目標達成、達成率は40.8%だった。

Ⓔ 第2期のKPIの総数と達成数の根拠は。

Ⓕ KPI総数は基本目標8、各プロジェクトで59、うち重複3で $8 + 59 - 3 = 64$ 。
達成数では立地協定締結件数が1つ重複しているため、達成数 $25 - 1 = 24$ となる。

Ⓔ 令和4年度の実績値が第2期の総括となるのか。

Ⓔ 基準値、目標値の考え方はどうか。

Ⓕ 第3期は令和4年度中に策定したため、KPIの基準値は令和3年度時点の数値となり、目標値はその時点での見込み値となる。また、第2期の総括は令和4年度の数値となるため、今年度把握できた数値となる。

Ⓔ 第2期の期間で人口が0.2%の減少に留まったとのことだが、それは市全体の話。中山間地域では人口減が進んでいるのではないか。また、昨年度、鹿児島県が和牛日本一となったのに、飼料価格高騰等により畜産業は苦戦するなど、厳しい面もある。

Ⓔ 5年先の目標人口を達成するには、今後さらなる努力が必要となる。ここ数年、先を見通しづらい社会情勢となっており、状況の変化に対応できるよう、総合戦略を適宜、見直しできないものか。

Ⓕ 総合戦略は国に届け出る地域再生計画をはじめ、様々な計画に影響が及ぶため変更は易しくないが、行政評価等を活用し事業展開を工夫するなど、できる範囲で対応していきたい。

(2) 第3期霧島市ふるさと創生総合戦略の取組について

→ 資料1の8ページ以降を3回に分けて質疑。

まず、事務局（企画政策課）から資料1の8～11ページに基づき説明。

Ⓔ 外国人宿泊客増加を目指すKPIに、どのように取り組むか。

Ⓕ 韓国をはじめ国際便が戻りつつある。今後も台湾等、国際線の誘致に取り組む。

Ⓔ 移動制限解除による外国人観光客の増加でオーバーツーリズム問題が注目されている。宿泊施設は足りているのか。数だけでなく、富裕層誘致など単価を上げる目標設定は必要ないか。

- ④ 宿泊施設等についてはコロナ禍の影響で廃業した事業者がある一方、改修・再開する事業者もある。観光業界・関係者と工夫し、K P I の達成を目指したい。
- ④ 若者が中山間地域に移住した場合、子どもの通学など様々な問題がある。どのように移住する地域を案内しているのか。
- ④ 将来の人口増や地域の担い手増を視野に、若者が中山間地域に移住する場合、補助を手厚くしている。移住相談の際は、地域の特色を案内し、移住地は本人の意思を尊重している。
- ④ 移住後、地域でイベントを開く人も多い。市のユーチューブチャンネル等でのような取組や各地区を P R する場があればいい。
- ④ 動画は効果的なツールであると考えている。都市圏イベント等では動画による P R が主流になってきており、本市でも動画の活用を検討していきたい。
- ④ 観光地への 2 次アクセスが課題である。乗り換えやアクセスの悪さ、便数の少なさが原因で、市外の観光地へ客が流れている。運転手不足の課題もあると思うが、まずは空港から国宝・霧島神宮への直行バス等が必要だと思う。
- ④ 大浪池等の観光巡回バスは、観光シーズンの需要増に対応できるよう、増便できないか。
- ④ 2 次アクセスについては市も課題として捉えており、来年度に増便等の実証運行ができないか検討している。
- ④ 県が中山間地域における買い物弱者解消に向けて検討していると聞いている。今後の対応は。
- ④ 県全体における買い物弱者対策を検討するため、まずは各地区の課題を押さえているところである。

→ 事務局（企画政策課）から資料 1 の 12～18 ページに基づき説明。

- ④ K P I 再生可能エネルギー導入容量の目標値達成に向けた具体的な取組はどうか。
- ④ 本市では太陽光、水力、地熱、風力等、多数導入しており、特に地熱、小水力発電を推進している。環境負荷に考慮し、大規模な太陽光、森林伐採等は推進しない方向で考えている。
- ④ K P I の交通事故発生件数の目標値は消極的だが、どう考えるか。D X ではオンライン申請手続き数を 11 から将来 38 件へ増やす。市民が知る術、P R 方法はどうか。
- ④ 交通事故発生件数は市交通安全計画の目標値と整合性をとっている。オンライン申請手続き数はすでに 27 件まで進めている。市ホームページ以外に、他の効果的な周知方法を検討中である。
- ④ オンデマンド A I バス（きりしま M ワゴン）等の導入に当たっては、デジタル

機器の扱いに不慣れな人たちも利用できる対策をとっているか。

- ㊦ 今後の行政サービスは多様性に配慮しデジタルとアナログの併用が重要である。デジタルに不慣れな人への対策としてスマホ教室を展開しているので、そこでMワゴンアプリの使い方を浸透させたい。

→ 事務局（企画政策課）から資料1の19～21ページに基づき説明。

- ㊦ 近年、市街地に工場が増え、就業者も増えた感がある。半面、市街地渋滞も増え、通勤時間も増えた。他県でも大規模工場建設による渋滞が多発し、国に改善の陳情がなされている状況がある。事業実施に当たっては負の側面への予測・対応も必要。これは行政だけではなく、企業も一緒に考えていく必要がある。
- ㊦ その点については、昨年度から国と市で渋滞対策検討会を立ち上げており、そのような場でも今後検討していく。
- ㊦ 「地元就職の魅力を発信」とあるが具体的には。
- ㊦ 高校生への工場見学会や、令和3年度からは高校生のインターンシップを実施している。
- ㊦ 広報誌では毎月、地元企業で働く若者を紹介している。地元がいい会社があることを保護者にPRし、家庭でも地元就職を促してもらう狙いがある。
- ㊦ ハローワークと企業との連携強化とは具体的に何か。
- ㊦ 雇用対策運営協議会において、関係者と対策を協議・実行している。教育機関では「霧島しごと維新」や中学生からのキャリア教育を実施。地元で働く素晴らしさを知ってもらえるよう、一体的に取り組んでいる。
- ㊦ 地元就職促進については、市の奨学金制度もある。大学卒業後、市内にUターンし、5年以上定住・就職、自治会加入すれば返還減免となる。
- ㊦ 地域の魅力は地元にいると気付きにくい。転入者は日常の風景など何気ないものに霧島市の魅力を感じている。SNSで魅力を発信する際は、他県等からの転入者が感じた魅力をまとめ発信すると効果的だと思う。

会議資料	会次第
	資料1 霧島市ふるさと創生有識者会議
	資料2 第2期霧島市ふるさと創生総合戦略KPI進捗一覧(総括)
	資料3 第2期霧島市ふるさと創生総合戦略成果検証一覧(総括)